

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

東京都内全地域に「作業療法」を届けよう！

地域づくり共創部の金澤です。

地域では「少しずつ作業療法が広がっている！」そんな手ごたえを感じます。都内も作業療法士の地域での実践報告が着実に増えてきています。それと同時に作業療法士がいない場所（場面）でも、作業療法のような支援が展開されてきているようにも感じています。作業療法が地域に浸透してきていることは大変喜ばしいことである一方で、「生活行為」の専門家として作業療法士は認知されているのだろうか？作業療法士はどれだけ地域の役に立てているのだろうか？

地域づくり共創部は、2014年に地域包括ケア対策委員会として活動を始めました。2014年は「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」が打ち出されるとともに、生活行為向上リハビリテーション実施加算が新たに報酬体系として新設されました。厚労省の資料には「活動と参加」「生きがいと役割」「出番と居場所づくり」など作業療法になじみのある言葉が並び、今こそ地域に作業療法が必要なのだと感じワクワクしました。

その後、少しずつ実践事例はあるものの、委員会で実施した都内の地域支援事業の実態調査¹⁾では、東京都にはまだまだ作業療法が届いていないということが分かって参りました。現状を踏まえて課題解決を模索したところ、「都内全域に作業療法をお届けする！」そんな地域のお役に立てる作業療法士を育成し、そしてお互いに高めあう仕組みが必要だと



医師会立中央区訪問
看護ステーション
金澤 均

いう思いに至りました。そんな思いが、地域づくり人材育成研修をはじめとする「地域事業支援体制構築事業」となりました。

外部講師の会員のご協力もあり、2023年より地域づくり人材育成研修「基礎編」を開始し、「実践基礎編」「実践編」「実践報告会」と取り組んできました。

地域づくりサポーター（基礎編修了者）は250名を超え、地域づくりパートナー（実践基礎編修了者）も60名、地域づくり推進リーダー（実践編修了者）も40名といった規模となってきました。

これから地域での実践を横展開し、お互いが高めあえる関係作りにつなげていく計画です。

世界で初めて経験する未曾有の超高齢社会の中で、東京都はこれから要介護状態の高齢者が劇的に増加していきます。生活の役に立てる専門職として作業療法士が地域に深く根ざしていけるよう、今こそ東京都民に作業療法を届けていきましょう！



1) 亀井将太, 川端敦史, 中谷美季, 他：東京都作業療法士会会員における地域支援事業参画に関する調査報告～2019年度調査と2021年度調査の比較～, 東京作業療法 13・14：40-46, 2025.

CONTENTS

- ◆東京都内全地域に「作業療法」を届けよう！…①
- ◆H.C.R.2025 第52回国際福祉機器展&フォーラム…②
- ◆国際福祉機器展(HCR) 2025 子ども広場への説明員派遣…③
- ◆パラスポーツ・フェスタ2025に見る、テクノロジー時代のOTの役割…③
- ◆教育部からのお知らせ…④
- ◆「OTの日」特別企画 Recipe for Life ～片手でも、心は自由に みんなで作る、おいしい時間～ 開催報告…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆地域づくり共創部「地域人材づくり人材育成研修～基礎編～」リニューアルのお知らせ…⑤

- ◆アップデートしてますか？認知症アップデート研修会のお知らせ…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.53…⑥
- ◆保険部 Letter 5歳児健診…⑦
- ◆福祉用具部からのご案内…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告…⑧
- ◆R7年度 第2回「就労支援委員会主催 事例検討会」を開催します…⑧
- ◆日本作業療法士協会における災害対策に関する情報共有…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆年会費と会費口座振替手続きについてのご案内…⑫
- ◆編集後記…⑫

H.C.R.2025 第52回国際福祉機器展&フォーラム

みなみ野病院 辻 和香奈

2025年10月8日から10日までの3日間、東京ビッグサイトで開催された「第52回国際福祉機器展(H.C.R.2025)」に、福祉用具部の一員として参加しました。今回も昨年同様11か国1地域から414社・団体ととても多くの出展がありました。我々は今年も「NPO法人・自助具の部屋」の皆さんと共同ブースで、埼玉県が新たに加わり、東京都・千葉県・神奈川県 of 4士会で「作業療法士による福祉機器相談」コーナーを担当しました。私は調査員として参加し、ブース運営の補助や出展されている福祉用具の調査に携わりました。

3日間の相談件数は70件を超え、当事者やご家族、医療職に加えて議員の方など、幅広い方々が立ち寄られました。作業療法士への関心が多方面に広がっていることを肌で感じる機会となりました。難しい相談もありましたが、相談員の方々が丁寧に耳を傾け、最後には相談者が晴れやかな表情で帰られる姿が印象的でした。

特に相談内容に合った福祉用具を紹介できたときの、相談者の「そんなものがあるのですね!」という驚きの声や、笑顔を見た瞬間には、作業療法の意義を強く実感しました。H.C.R.は、地域で暮らす人々の“生の声”に触れ、現場での支援に直結する学びを得られる貴重な場です。最先端の福祉機器を専門家から直接学べるこの機会を得た経験を、今後の臨床に活かしていきたいと思います。



国際福祉機器展（HCR）2025 子ども広場への説明員派遣

会長 田中 勇次郎

今年のHCRは10月8日（水）～10日（金）に開催されました。都士会は、東京都障害者IT地域支援センター（以下、IT支援センター）が実施する展示機器の説明員を各日2名、スポーツ支援委員会から派遣しました。

IT支援センターは、当事者・当事者家族及び区市町村などからのデジタル技術に関する相談を受けることが主業務ですが、HCRへの出展は東京都福祉局の要請であり、都士会はIT支援センターからの協力依頼を受けて2023年から関わるようになりました。

都士会にとってのメリットは、OTが障害児へのデジタル機器活用に関わる職種であることを、当事者・当事者家族、特別支援学校教員、療育施設職員、行政機関職員、リハ職養成校学生などにアピールできることです。

私も相談員として参加し来訪者からの相談を受けたのですが、その中で印象に残ったものは、訪問でデジタル機器活用を支援してくれるOTの紹介でした。フローレンスのパラeスポーツ大会でも同様の相談を受けたので、士会として人材育成の必要を感じました。



パラeスポーツ・フェスタ2025に見る、テクノロジー時代のOTの役割

スポーツ支援委員会 担当理事 楠本 直紀

2025年8月6日、「パラeスポーツ・フェスタ2025 ～インクルーシブ・テックで遊ぼう!～」が開催されました。特定非営利活動法人フローレンスとテクノツール株式会社が共同主催したこのイベントには、東京都作業療法士会からスポーツ支援委員やOT学生らがボランティアとして参加しました。

本イベントは、肢体不自由のあるお子さんとそのご家族を対象に、「楽しい!」を原動力とする遊びを通じた活動の場を提供しました。作業療法士は、日常生活でのテクノロジー活用や遊びの提案を通して、参加者一人ひとりの「できる!」という可能性を広げました。

主催者からは、参加者のゲーム経験レベルが向上する中でも、「丁寧なサポートにより、お子さん・ご家族ともに『できる!』『楽しい!』を届けられた」と、OTの専門性の高さに対し、感謝のメッセージが寄せられました。

この取り組みは、NHKをはじめとする多数のメディアでも報道され、大きな反響を呼びました。当日の会場の様子や、OTの活動、参加者の笑顔は、フローレンス公式YouTube（QRコード）でもご覧いただけます。ぜひ、作業療法の新たな可能性を感じてください。

作業療法士は、eスポーツやインクルーシブ・テックといった新しい分野においても、個々の能力を引き出し、社会参加を促進する上で不可欠な役割を担っています。学生ボランティアの協力も得ながら、OTがテクノロジーと遊びの架け橋となる新たな専門職としての役割が、今後ますます期待されます。



教育部からのお知らせ

2025年度 現職者選択研修（必修）MTDLP基礎研修開催のお知らせ

日時：2026年3月8日（日） 9：30～17：30予定

定員：80名

場所：ZOOMによるオンライン研修

会費：4000円 ※区分によって異なります

申込期間：2025年12月1～31日まで東京都作業療法士会会員のみ先行受付

2026年1月10日～2月8日 一般申込受付期間

※定員になり次第、申し込みフォームは締切となります。

詳細は都士会HPに掲載予定です。ご確認ください。

「OTの日」特別企画 Recipe for Life ～片手でも、心は自由に みんなで作る、おいしい時間～開催報告

都士会事業部 岡田 泰裕

2025年9月28日（日）パティア四ツ谷で「OTの日」特別企画 Recipe for Life～片手でも、心は自由に みんなで作る、おいしい時間～を開催させて頂きました。今回の講師として、脳卒中を発症した女性3人が結成した当事者会「チームLEO」の皆様にご協力頂きました。当日は27名が参加し、作業療法士だけでなく当事者の方も参加して頂き多角的な視点で研修を行うことが出来ました。

本企画では、片麻痺当事者団体のチームLEOの皆さんが、創意工夫を凝らしたテクニックを駆使して片手で作る料理をデモンストレーションして頂き、料理にまつわる困りごとやもう少し楽に出来たら良いと思う事を教えて頂ける場となりました。デモンストレーション後には実食も行い、当事者の皆さんと作業療法士参加者で質疑やディスカッションする時間も設け充実した研修時間となりました。

事業部では、「OTの日」に合わせて毎年様々な企画を行っております。当事者の方を交えて行う研修会は初の試みでありましたが、参加者の皆様に満足頂ける良い研修企画となったと思っております。次年度以降もOTの日に合わせた作業療法を啓発出来る企画・運営が出来ればと思っております。このような機会に参加させて頂けた事に心より感謝しております。



子ども委員会活動報告

子ども委員会 山西 葉子

9月6-7日に、「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会-基礎編-」を開催しました。この研修は日本作業療法士協会制度対策部が作成したパッケージを使用することができ、各士会で実施されています。この度、東京都士会では初の開催となりました。

子ども委員会委員の他、文教大学教育学部の小野里氏、東京都教育庁都立学校教育部の松浦氏を講師にお迎えし、現在の教育制度並びに東京都における特別支援教育についてご講義いただきました。両日で36名の方に受講いただきました。ご参加いただいた皆様並びに講師の皆様にご礼申し上げます。受講者アンケートでは、「有意義な研修であった」との声を多数いただきました。また、今後のご要望として、学校の状況を定期的に知る機会が欲しい、今回の研修会の実践編の開催や子どもの作業療法士がつながる場が欲しい、など様々なご意見をいただきました。今後の研修企画につなげてまいりたいと思います。

2007年に特別支援教育が学校教育法に位置づけられて以降、全国的に作業療法士等が教育現場に関わる機会も増え、都内の学校等からも大変多くのご要望を頂いております。

ニーズの高まりに対応するために、今年度から、こども委員会ではOT派遣事業の準備を進めてまいりました。今回の研修開催に合わせOT派遣メンバーの募集も開始いたしました。会員の皆様が持つOTスキルを地域支援に生かしてみませんか？詳細は、都士会HPをご覧ください。

地域づくり共創部「地域人材づくり人材育成研修～基礎編～」 リニューアルのお知らせ

地域づくり共創部 中澤 正宏

東京都作業療法士会地域づくり共創部では、地域での作業療法実践を支える人材を育てるために「地域人材づくり人材育成研修」を実施しています。これまで多くの方々にご参加いただき、「地域づくりサポーター」として登録された会員が、各地で活動を広げてきました。

今年度は、講師陣と内容を新たにし、改めて「基礎編」を開催いたします。制度や地域包括ケアの最新動向に加え、地域資源の理解や活用、多職種連携の実際など、地域で活動するうえで欠かせない基礎を整理できる内容となっています。講師はいずれも第一線で地域実践に携わる作業療法士であり、事例を交えた分かりやすい講義を予定しています。

本研修は、受講後に「地域づくりサポーター」として登録される仕組みになっており、今後予定されている「実践基礎編」や「実践編」へのステップアップにもつながります。これから地域での活動を始めたい方はもちろん、改めて基礎を見直したい方にとっても有意義な機会となるでしょう。

地域での作業療法の役割はますます広がりを見せています。本研修をきっかけに、会員一人ひとりが自信を持って地域に関わり、その力を発揮できることを期待しています。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

アップデートしてますか？ 認知症アップデート研修会のお知らせ

認知症の人と家族の生活支援委員会 委員 峯浦 花織

9月は「アルツハイマー月間」とされており、全国各地で認知症関連のイベントがありましたが、皆様は参加されたでしょうか？

当委員会の村島さんは、9月20日に西東京市と東久留米市で行われた「RUN伴」というイベントに当事者である藤島さんと共に参加されました。櫛リレーで地域の人々と認知症に関する理解を深めるまちづくりのイベントとして、OT3名を含めた200名以上のイベントで大盛況だったようです。

また私自身も地元のイベントにささやかながら参加させていただきました。そして改めて「認知症」に対する住民のネガティブな印象が強いということを知りました。7月に行われた東京都作業療法士学会の認知症カフェでお会いした藤島さんの、事前の打ち合わせからしっかり自分の意見を話され、当事者の本音や思いを大勢の人前で話し咄嗟の質問にも対応されている姿を見てギャップがあり、私自身認知症の知識の整理や更新が必要だな、と考えさせられました。

来年1月下旬に当委員会では認知症アップデート研修を企画しております。

まだ日程など詳細は決定しておりませんが、自分の持っている知識を改めて見つめなおす良い機会となるように創意工夫しております。決定次第告知致しますので、多くの方の参加をお待ちしております。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.53

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『その人らしさ なくなる』

著/恩蔵絢子 絵/大谷たらふ

著者は脳科学者であり、認知症とともに生きる人々の姿を、やさしいまなざしで描いたノンフィクションである。著者は、記憶や言葉が失われても、なお残る「その人らしさ」に目を向け、本人の語りや家族、支援者の声を通して、変化の中にある確かな存在感を丁寧にすくい取っている。本書には、認知症の人が語る印象的な言葉がいくつも登場する。「忘れてしまうけど、忘れたことを覚えている」という一節は、記憶の不思議さと、その人の感覚の豊かさを教えてくれる。こうした言葉は、認知症を「失われるもの」としてではなく、「変わりながら続いていくもの」として捉える視点を読者に与えてくれる。また、著者は「ケアとは、その人らしさを支える営みである」と繰り返し語っている。この言葉は、介護の現場に限らず、すべての人間関係に通じる大切なメッセージである。誰かの「らしさ」を守ることは、その人を尊重することにつながる。本書を読むことで、私たちは日常の中にある「その人らしさ」に気づき、それを大切にする意味を考えるようになる。『その人らしさ なくなる』は、認知症というテーマを通して、人の尊厳やつながりの本質にそっと触れることができる。読む人の心にやさしく語りかけ、誰かを思いやる気持ちを育ててくれる一冊である。

保険部 Letter 5歳児健診

住田 多恵子

こども家庭庁の施策として「5歳児健診」が注目されています。多くの市町村では3歳児健診以降、就学時健診まで健診がなく、乳幼児への切れ目のない母子保健提供のため5歳児健診の標準化・体制整備が必要とされています。5歳児は言語の理解能力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期であり、子どもの個々の発達の特性を早期に把握し、必要な支援につなげる5歳児健診の実施は重要とされています。

5歳児健診では、「問診・診察・評価」を行い、「健診後カンファレンス」で多職種による評価・支援の必要性の検討、「専門相談」で保護者との共有が行われます。その後、地域でのフォローを目的とし、医療機関や保健センター、児童発達支援センターなどの福祉、教育委員会などに繋げていくことになっています。

健診に関わる職種として作業療法士があげられています。作業療法士の健診での役割としてアセスメント、子どもの特性理解や生活での支援アドバイス、必要に応じて療育や相談機関へつなげその先での支援の提供などが期待されています。

5歳児健診の実施はまだ全国で15%（5歳児健診ナビポータルアンケート結果：2024年8月実施）程度でまだ少ない現状です。作業療法士の参画は63自治体（作業療法士協会アンケート：2025年8月実施）となっています。自治体により健診の実施方法は違い、個別健診、集団健診、園巡回方式、アンケートなどがあります。まだ5歳児健診に参画している作業療法士が全国的に少なく、どのような形で参画していくことができるか模索する段階でもあります。

今後、日本作業療法士協会では、重点課題研修として研修を2025年12月7日、2026年2月15日に同じ内容で開催予定です。ご興味がある方はご参加ください。

参考資料：5歳児ポータル<https://gosaiji-kenshin.com/>

日本作業療法士協会主催 5歳児健診への作業療法士参画に関する意見交換会資料



福祉用具部からのご案内

■主催：（一社）日本作業療法士協会生活環境支援推進室 共催：東京都作業療法士会

今回の説明会ではレンタル対象の機器以外に最新のテクノロジーを活用した機器 やパソコンやスマホのアクセシビリティなどの紹介や実際の体験などを盛り込み、2日間の日程で開催します。会員の皆様には奮ってご参加頂き、この事業を活用下さい。

第26回 IT機器レンタル事業説明会（東京都）

☆対象 象：日本作業療法士協会正会員

☆参加費：無 料

☆開催日時：2025年12月6日（土） 10：00～16：15（受付9：45～）

2025年12月7日（日） 9：45～14：35

☆場 所：日本リハビリテーション専門学校

☆定 員：40名

☆内 容：IT機器レンタル事業および補装具制度の説明、レンタル機器体験、成人および発達分野のIT活用支援のプロセスとポイントの講義など

☆申し込み：下記URLまたはQRコードから

<https://forms.gle/Wa1TKZPXhuXjaPC3A>

☆申込締切：2025年11月28日（金）

☆問い合わせ先：japanotict@gmail.com



自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

今年7月に開催された第21回東京都作業療法学会において、本委員会主催のシンポジウム「自動車運転再開に向けた多機関連携」を実施しました。シンポジウムでは、急性期から生活期に至るまでの各段階で作業療法士が果たす役割や、医療機関・教習所・行政など多職種・多機関連携の重要性について活発な意見交換が行われました。参加者からは「現場での支援を見直すきっかけになった」といった声も寄せられました。

現在は、新たな研修会企画として「(仮)脳損傷者の自動車運転再開支援の最新動向と作業療法士の役割」を年内に開催すべく準備を進めています。本研修会では、自動車運転再開支援に関する最新の知見や臨床実践を共有し、評価や助言のポイント、多職種連携の在り方を整理することを目的としています。より実践的な学びの場となるよう企画していますので、ぜひご参加ください。

また、日本作業療法士協会より、専門作業療法士分野「運転と地域移動支援」が新設されたとの情報が発表されています。協会ではすでに「運転と地域移動支援実践者制度」の運用が進んでいますが、専門分野としての構築により、作業療法の専門性がより明確化されることが期待されています。関心のある方は、ぜひ協会の情報もあわせてご確認ください。

本委員会では、今後も学びと連携を通じて、安全で自立した移動支援を推進してまいります。

R7年度 第2回「就労支援委員会主催 事例検討会」を開催します

就労支援委員会 谷本 佳代子

就労支援委員会では、就労支援に関する知識の向上やスキルアップを目的とした「オンライン事例検討会」を毎年開催しております。

12月の内容は、高次脳機能障害の復職・再就労事例を予定しております。

聴講していただく方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実感を感じていただければと思います。(ご参加いただく方には事例検討会における守秘義務への同意をお願いします)

また、事例検討終了後には、就労支援に関する「質問コーナー」を設け、参加者の皆さんの日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。

OT同士の“つながりづくり”も大切にしたい、アットホームな雰囲気で行っています！

普段就労支援に取り組まれているOTはもちろん、就労支援に興味のある方も、是非、お気軽にお申し込みください。

日 時：12月12日（金）19:00～20:30

定 員：聴講10名

対 象：東京都作業療法士会 会員

参加費：無料

【申し込み方法】

「東京都作業療法士会ホームページ 講演会・研修会・学会情報」

またはこちらのURL (<https://forms.gle/jl6qyZrERcRGcY959>) もしくは、QRコードよりお申し込みください。



日本作業療法士協会における災害対策に関する情報共有

都士会保険部 災害対策担当 門脇 優

東京都作業療法士会は、災害対策として日本作業療法士協会とも連携を行っている。都士会の災害対策を担当しながら、日本作業療法士協会の地域社会振興部-災害対策課にも所属しているため、今回は日本作業療法士協会における災害対策に関する情報を共有する。

日本は災害大国であり、日々様々な災害が発生する中で、近年では災害発生後の対応や事前の防災など災害に対する機運が高まってきている。災害に対する情報収集の機会は増えており、一般的な災害についての情報や専門職として学ぶ機会など多くの情報が得られる。

日本作業療法士協会では、地域社会振興部-災害対策課が年2回ほど災害対策・支援に関する研修を行っている。主に、各都道府県士会を対象とした研修会と、各会員個人を対象とした研修会を行っている。それぞれの研修会の特徴について、一部情報を共有したい。

<士会協会災害対策担当者連絡会>

2024年度より実施。各都道府県士会の災害担当者や理事などの方々を対象としている。過去二年間のテーマは下記内容にて実施。

2024年度「令和6年能登半島地震における災害対応の実際、都道府県士会の災害対策・対応の例」

2025年度「災害時に求められる『士会独自の支援活動とは』、災害に関わる育成活動」

協会と各都道府県士会との情報交換だけでなく、都道府県士会間での繋がり強化が図れている。オンラインでの開催となっているが、“顔の見える関係性作り”と“近隣県の担当となる方々との繋がり”に役立っている。

<災害支援研修会>

年1回災害に関する研修会を実施している。協会災害支援ボランティア登録者・都道府県士会の災害対策に関する担当者・その他、災害支援に興味関心のある日本作業療法士協会会員を対象としている。以前は、対面での研修会を行っていたが、現在はオンラインでの実施となっている。

研修会のメインテーマは、その時々話題となるテーマや過去の参加者の方々のアンケート結果を参考に決めている。

2024年度「令和6年能登半島地震での作業療法士の関わりについて」

2025年度「災害発生時、我々専門職が行動するための心構え」

研修会では、講義とグループディスカッションの枠で開催されているため、参加者それぞれが考える機会が得られる内容となっている。

主に個人として参加できる研修会は、災害支援研修会になるが、協会誌や協会HPに情報が掲載されるため、機会があれば多くの方に参加して頂きたい。

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

今野 悠太

皆様こんにちは。区東部、東北部ブロック委員の今野と申します。

現在、1月に「福祉用具の活用例」についての研修会を企画しております。福祉用具専門員の方をお招きし、若手のOTはもちろん介護職の方にもご参加いただけるような研修を考えております。また、3月にも自己研鑽の方法を様々な経験談と共にお伝えする研修会を企画しております。詳細については、今後発信していければと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

そして、区東部・東北部ブロックでは、ブロック委員の募集も随時行っております！私は昨年度よりブロック委員に所属させていただいておりますが、他のブロック委員との交流を通じ、職場だけでは知ることのできなかった作業療法士としてのキャリアや情熱を感じております。興味ある方は是非ご連絡ください。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com



委員参加申し込み



企画研修案募集

西部・西南部ブロック

松下 泰輔

私ごとですが、9月に卒業校の卒後研修会を行いました。新人から中堅にあたる年代の参加で話題になったのは、臨床技術はもちろんですが、ライフワークバランスやOTとしての今後の働き方についてでした。

こうしたテーマへの関心の高まりを受けて、当ブロックでは11月25日（土）に「ここでも活躍してるの?! 作業療法士～OTの起業と行政への参入～」という研修会を開催予定です。講演とグループワークを通じて、OTとしての視野が広がり、モチベーション向上につながればと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。また、ブロックの活動に興味がある方や協力いただける方も募集しています。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

松原 大吾

このたび東京都作業療法士会区西北部ブロックの役員を務めさせていただくことになりました、作業療法士2年目の松原大吾と申します。現在は急性期病院に勤務し、日々の臨床を通して学びを積み重ねています。まだ経験は浅いですが、役員活動を通じて自己研鑽を深め、成長につなげていきたいと考えています。

8/21に「生涯学習制度について」の研修をおこない、40名程の方が参加され、自己研鑽の必要性を再度確認できる場になったかと思っています。

最後に、「研修の企画・運営に関わってみたい」「ブロック活動に興味がある」という方も大歓迎です。お気軽にお問い合わせください。一緒にブロック活動を盛り上げていきましょう！

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

山本 司

当ブロックでは7月に南部で情報交換会、9月に中央で交流会を開催いたしました。

オンラインで開催した南部の情報交換会は17施設が集まり、研修会などの協力やブロックからの情報発信にお力添えをいただけることになりました。

対面形式で開催した中央の交流会では、「アットホームな雰囲気で緊張せずにいろいろな施設の方々と交流ができた」「有意義な情報交換ができた」との感想をいただきました。

今後も多くの方々がつながれる場が提供できるようにブロック活動を盛り上げていこうと思います。ブロック活動に興味のある方はメールをいただけたら幸いです。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

大貫 真理

コロナ禍以降初の対面実技研修会となる「園芸療法研修会～作業療法士のための明日から使える園芸活用法～」を田無病院にて開催いたしました。

講師には、北多摩ブロック委員の作業療法士兼園芸療法士としてご活躍され、農福連携技術支援者としても尽力されている河原崎先生をお迎えしました。

研修では、「園芸療法とは」の基礎講義から始まり、寄せ植えのデモンストレーション、ミニ大根などを用いたペットボトル栽培、さらに育てた植物を活用した押し花づくりの実技まで、理論と実践の両面から学びを深める内容となりました。

当日は20名の作業療法士が参加し、希望者には種を植えたペットボトルプランターをお持ち帰りいただくなど、終始和やかな雰囲気の中で盛会のうちに終了しました。

今後は、研修で植えた植物の成長の様子や、次回以降の研修会情報をInstagramにて発信予定です。ぜひご覧ください。(@kitatama_ot)

また、北多摩ブロックでは引き続き活動メンバーを募集しております。ご関心のある方はお気軽にご連絡ください。

連絡先→ot.kitatama@gmail.com



西多摩・南多摩ブロック

今泉 幸子

当ブロックでは11/15にMTDLP事例検討会をオンラインで開催します。このニュースが出る頃には準備も整い開催を待つばかりとなっていると思います。年末は忘年会企画、年が明けましたら第2回「OT交流会」を開催予定です。この冬はコロナが再燃せずリアルに集まることをできるよう願っています。

10年も続けてしまったブロック長を交代する運びとなりました。次期ブロック長は永生病院 上野さんが担ってくださいます。新生 西多摩・南多摩ブロックにご期待ください！！

⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

年会費と会費口座振替手続きについてのご案内

日頃より、東京都作業療法士会の事業にご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。さて、年会費のご納入が確認できていない方については11月号ニュースに振込用紙を封入しております。未納年度分の金額をご確認いただき、ご納入のお手続きをお願い致します。

また、次年度からの会費自動引き落としの手続きとして、登録していない会員の方へ「預金口座振替依頼書」を同封してお送りしております。こちらの受付については2026年1月末までとなりますので、ご希望の方は余裕をもってご返送ください。

<振込用紙以外の会費納入方法>

銀行ATMやネットバンキングからお振込みされる方は、
下記のURLか右のQRコードの口座番号をご参照ください。
クレジットカードでの会費納入決済をご希望の方はホームページの
お問い合わせよりお知らせください。

<https://tokyo-ot.com/members/procedure/fee>



<年会費納入状況の確認方法>

東京都作業療法士会の会費納入状況は、日本作業療法士協会会員である場合には
会員ポータルサイトよりご確認いただけます。

ログイン後に、左タブの「登録情報」→「会員情報」から「士会情報」をご確認ください。

日本作業療法士協会「会員ポータルサイト」

<https://www.jaot.or.jp/portal/kaiinkanri/>

編集後記



専門学校の教員になり3年目になりました。病院勤務時代は実習生の指導、新人教育を経験しておりました。作業療法の楽しさや深さを伝える事に興味があり恩師のお誘いを受けたことがきっかけでした。

OTRの皆様方には臨床実習で学生指導を賜り、本当に感謝の念でいっぱいです。と、いうのも、学生は臨床実習でOTR、職員、対象者様と関わり、普段と違う環境で背伸びしながら臨床に立ち向かう事で、実習後には別人のように立派に成長していきます。その姿を目の当たりにできる事が教員になって良かったと感じる瞬間だからです。

若手OTRの方は学生時分を思い出すことは容易いでしょう。しかしながら、中堅、ベテランともなると遙か昔。ただ、「何も分かっていなかった」という記憶をお持ちの方もいるのではないのでしょうか。

今の学生には様々な苦手があります。規則正しい生活、人との関わり、人の話を聞くこと、文章作成、ハウ・レン・ソウ、マナー。「え？」と思う事は日常茶飯事です。

初年度の5月まで私は作業療法を教え、伝えに來たと思っておりましたが、全く違いました。今は作業療法をしに來ているという感覚です。評価して指導のプログラムを立て準備をする。チームングをする。個別と集団を扱う。まさにOTです。

今、「私は人と接する事に苦手意識があります。」と実習地に送る個人資料の自己紹介に書いて提出した学生も、表現が苦手なだけで本当は情熱を胸に秘めているに違いないと目を細めています。

広報部 部長 野村 哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。